

私たちはカラーパレット

(原文は英語)

アネリス・クリステル・ワルワチ・キスペ (14 歳)

ペルー

色は何色あるのでしょうか。きっと何千、何百万色もあるに違いありません。ひょっとしたら、何十億色もあるかも知れません。それぞれの色は、唯一無二の色です。基調となる色の数は限られていても、色の明るさや強さを変えることで新しい色を作り出すことができます。同じように、私たち一人ひとりも、それぞれ独自の状況に沿って美しい文化的な筆運びで描かれた 1 つのキャンバスです。

多くの人々が自分の色の美しさを理解していないかも知れません。私もそうでした。その時のことを今でもよく覚えています。以前、お料理のワークショップに参加していた時、私はお湯で火傷をしてしまいました。その時、「アチャチャウ！」と言っていました。ケチュア語で「熱い、熱い！」を意味する言葉です。私がその言葉を言った時、近くにいた女の子は「なんて下品なの…」とつぶやきました。私は戸惑い、恥ずかしくなりました。私は、そのフレーズを使っていた私のこれまでの人生すべてに困惑し、恥ずかしさを感じました。私の家族はケチュアの家系のため、その表現を使うことは当たり前でした。そのため、他の人たちが下品だと感じるとは思っていませんでした。

また別の機会では、母が学校に来た時に「私の可愛い女の子、今日はどう？」と言いました。母はいつも私のことを、愛情を込めてそう呼んでいました。その後、何人かの子どもたちが、私が甘やかされている、私はまだ赤ちゃんのように扱われているとうわさを広め始めたということを耳にしました。彼らが自分のことを話しているのを聞いた時、私はとても恥ずかしくなり、「すべてのうわさの原因」である母に対して怒りを覚えました。

次の日、母は、私の宿題を手伝ってくれていた時、「私の大切な女の子はどうしてそんなに賢いの？」と言って私を褒めました。「かわいい女の子」、母はまたその言葉を言ったのです。私は急に母に対して苛立ち、二度とそんな風に呼ばないで、と母に向かって叫んでしまいました。その後、私は目にあふれた涙をこらえることはできませんでした。母は、突然のことでショックを受けていました。私は自分がしてしまったことに気づいて、母に謝り、頬を流れる涙をこらえようとしました。

母はなぜ私が泣いているのか、とても心配し、優しい声で何があったのかと私に尋ねました。その時、私は、この数年間起きていたことをすべて話してしまいました。友だちと比べて私がどれだけの違いを感じていたのか、友達がどんな風に話していたのかを話しました。母は私の状況を理解し、私を慰めて、世界中の人は誰もが違って個性的事であること、中には他の人よりも違いがはっきりしていて個性的な人もいること、しかしそれは、私たちが他人と比べて、より劣っているわけでも、より大切

というわけでもない、と説明してくれました。母は私に「私たちはみんな、私たちの中に違う色のパレットを持っているの。それで描くものは個性的で、かけがえのないものなのよ」と話してくれました。当時、私はその言葉の意味を理解できませんでしたが、それ以外のメッセージは理解することができました。

その後、とても困難でしたが、少しずつ他の人たちが私のことをどのように言っているのか、思っているのかについて気にすることを止め、自分を愛することに集中するようにしました。同時に、私と同じような境遇にいる人たちを手助けするようになりました。

そして今、私はやっとあの時に母が私に話したことの意味を理解できるようになり、母の言葉は私の人生の中核となっています。私たちの違いとは、お互いを引き離したり、憎んだり、拒んだりするためのものではなく、個性であり、お互いを尊重し愛するためのものです。

リンゴの標準的な色は赤ですが、青リンゴもありますし、いつも青い空は夕焼けでオレンジや黄色を帯びることもあるのに、なぜ人は、自分と違う人たちを傷つけるのでしょうか。

私はまだ子どもなので分からないことがたくさんありますが、差別的な状況を目にしたり、経験したりしたら、その状況に立ち向かい、他の人たちの意見に流されずに自分らしさを持ち続けなければならないと思っています。私たちは、平和につながる道です。平和な世界とは、色のない白の世界ではなく、すべてのカラーパレットが調和をもって共生し、歴史のすべてにおいて最も美しいキャンバスを作り出す世界に違いありません。